



# せりっ子スマイル 楽しく何でもチャレンジ！



夏休み明けは、緊急受入れに始まり、一か月間にわたる分散登校を実施しました。

夏休み中に新型コロナウイルスの感染拡大は収まらず、夏休みが明ける間際に、8月中は緊急受入れの対応をしながらの臨時休業となりました。その後、9月1日から学校が再開したものの、一旦、13日までの予定であった一日の登校人数を半減する分散登校がさらに10月1日まで延長され、結局、子どもたちは、一か月丸々、隔日で交替しながら登校を続けることになりました。

この間、子どもたちには、一人1台ずつタブレット端末を貸し出し、学習アプリを活用した課題の取組を、また、保護者の皆様には、毎日のお子さんの検温や健康観察の結果報告をオンラインで行うことを導入しました。まだまだ試行錯誤を重ねている段階ですが、月末の9月30日と翌10月1日には、さらに、オンラインで家庭と学校を直接つなぐ試みを朝の会の時間に行います。今後ともご対応とご協力をお願いいたします。



5組(個別支援学級)で、夏の終わりに「水遊び」の活動をしました。

5組では、9月10日に、夏休み明けに毎年恒例で行っている「水遊び」の活動を実施しました。9月の初めは雨天続きで、予定日を延期してようやく迎えた当日でした。学級みんなで事前に話し合っ、仲を深めるために、楽しく安全に思い出をつくろう」というめあてを決めました。当日は、「楽しく安全に」活動することができるように、遊びの約束をしっかりと守って、参加しました。どうするとの的を倒すことができるのかを試し、こつを見つけていました。終わった後には、振り返りの記録文を書き、楽しかった思い出を確かめ合いました。



## 地域にあるフラワーロードの方々に花の苗の植え方を教わりました。



9月21日と22日に、1年生のそれぞれの登校グループが、芹が谷小学校の学区地域にあるフラワーロードの方々にこれからの季節に咲く花の植え方を教わりながら、体験しました。分散登校でなければ、高学年の学校環境委員会が取り組む予定でしたが、委員会活動の時間が取れないため、代わりに1年生が引き受けました。コロナ禍で、校外とかわる様々な機会を断念することが多い中、分散登校で半数になった子どもたちが、さらに学級別で場所を分けて、交わることのないように気を付けながら、活動を実現しました。そのために、連日で二度行う計画になっても、貴重な体験の機会を少しでも残したいと思います。

ご協力をいただいたフラワーロードの皆様、ありがとうございました。



## 「自立」の本当の意味

児童支援専任 白川 啓介

9月中は分散登校で、友達とのかかわりが極端に少なくなった児童も多かったことと思います。分散登校中、私がクラスに入って、ソーシャルスキルを高めるゲームをしました。じゃんけんであいこをそろえたり、出された題目から、連想したものを言い合ったりする簡単なゲームでしたが、笑顔で楽しむ児童がたくさん見られました。活動の感想には、「最近、みんなで遊べないから楽しかった。」「もう一つのグループともやってみたい。」「普段、話さない友達ともできて、仲良くなれた気がする。」等、前向きな感想がとても多かったです。

さて、今回のタイトルにもある「自立」についてですが、子どもの自立には、何が必要だと思いますか。自信でしょうか。我慢でしょうか。自立するためには、「依存」できるものを増やすことが大切だと言われることがあります。一見「自立」と「依存」は、反対の言葉のように感じます。確かに、依存できるものが一つしかない、自立は難しいです。しかし、依存するものがいくつかあると状況は変わってきます。

例えば、「算数が得意だと思っていたのに、算数のテストの点が悪かった。」ということが起きた時、算数しかできない場合は、とても落ち込んでしまうでしょう。しかし、国語や理科が得意ならどうでしょうか。体育が得意ならどうでしょうか。そこまで算数のことは気にならないかもしれません。

このことは、人間関係にも言えます。何か物事を決めるときに、一人にしか意見を聞けない人は、その人がいなくなった時、とても困ります。しかし、いろいろな人に意見を求める人ならどうでしょうか。一人がいなくても、他の人の意見を聞いて、自分でよい意見を選択して行動ができます。依存先が複数あることで、行動ができたということです。この姿は、「自立」と言えそうですね。

先月の学校だよりで、ストレスに耐えている子どもがいるという話をしました。そのストレスとうまく付き合うために、人や物事とたくさん関わることが大切です。そうすることで、依存先が増え、自立につながるのではないのでしょうか。

はじめに紹介したゲームの感想にもあったとおり、今児童は、人とつながる経験が少なくなってきています。学校でも、オンライン朝の会やロイロノートの活用など、少しでも人とつながる経験ができるよう環境を整えているところです。

一番身近な家族や学校、地域の人達が関わっていくことで、児童は、頼れる先を増やし、自ら行動を選ぶことができます。学校は少しずつ、自立できるよう、指導を繰り返しています。ご家庭や地域の皆さんも、子ど